

エゾマツ



No. 52

2000. 3 . 30

北海道ボランティア・レンジャー協議会

目

次

1. 巻頭言 「萌」 会長代行 川端 功治 (1)
2. 1月以降の活動 (3)
3. 会員の声 (4)
4. 定期総会の案内 (6)
5. パークボランティアとは 佐々木 幸夫 (7)
6. キーワード (10)
7. 居間から野鳥観察 小林 文男 (11)
8. 本の紹介 (13)
9. 私の一名山 川端 功治 (14)
10. おくやみ (18)
11. 観察会研修会情報 (19)
12. 編集後記 (21)

萌

会長代行 川 端 功 治

「春よ来い！早く来い！」の童歌でも聞こえて来そうな、麗らかな日和。欠伸でもして手、足をゆっくり伸ばす。その伸びをした鼻先に、ほのかに漂ってくる微かな香り。それは紛れも無い木の芽の香り。萌芽した芽が発散して、春を告げているのです。

窓から眺めてみると、あの枯れ木の塊の様であった裏山の裾野の付近の林は、さっと一刷毛、極く薄い黄緑の色で、お化粧済なのです。このような風景を「ほう芽した林」と呼ぶのか「ぼう芽した林」なのか、徒然なるままに、辞書で調べてみました。

萌は音読みで「ボウ」。訓読みで「ホウ」。したがって文芸詩歌に用いる時は日本人好みのソフトな音色の「ほう芽」。これは私見ですが慣用音で、俗称として、「綻びる、ほける」の音質が先行しているので、訓読みはホウとなったと推理されます。

ところが文部省制定の学術用語集—植物編—（丸善刊行）では音読みのボウ以外は認めていない。従って私が窓から眺めた黄緑の林はホウ芽した林であって、ホウ芽林とは呼ばれないのです。国語辞典では、ひこばえの施業林をホウ芽林としていますが、ボウ芽と定めた文部省令にはそのような林は認めてはいないので、なんとややっこしい話ですが、ホウ芽とは開葉する直前の姿を指し、間もなく、開芽、開葉してしまうからホウ芽林という言葉はあり得ないこととなります。これに比べ、ボウ芽林は伐採された根の陰芽、側芽、根芽（優れた木になる）を育てるから、親の遺伝子を100%受け継ぐ、今流行のクローンです。そしてボウ芽木となり、ボウ芽林と呼ばれる施業林になり一生ボウガの呼び名は付いて

回ります。

こんなことを、ひねくり回しては折角の春景色も台無しになります。

毎年の事ながら、この時期になると心機一転を図る大切な行事があります。それは我がボランティア・レンジャー協議会の大切な総会が開催される事で、特に今年は2年目の役員改選期を迎えました。

2年間の長きに渡って、万障繰り合わせて各種行事に参加して戴き、積極的なきめの細かいご指導を賜った各役員の皆様方に心から感謝申し上げる次第です。

そして大会で選出された新役員の方々には、これから2年間ご苦勞をお願いする訳ですが、健康にはくれぐれにも留意され、清新にしてごんしんなアイデアのもとに、元氣澆刺と活躍されんことを切に念願して止みません。

「萌！」万物全て萌え出ずる季節です。会員各位の益々のご発展を祈念します。



ミズバショウ

森林レクとボラレン活動

『“森林レク”道民に定着』こんな見出しが、道新3月12日(日)朝刊に載っていました。

「レクリエーションのために最近1年間で何回森林を訪れたか」との質問に3~4回が23%、2回が19%、5~9回と10回以上もそれぞれ10%以上あり、「利用したことがない」の18%を大きく上回っているそうです。

また、「道民の森」など、森林施設を子供たちの学習の場として活用するには何が求められるか」との質問では「動植物の豊かな森づくり」が64%で、ありのままの自然環境の保全を求める声が多かったそうです。

これらの結果から、「道民の78%が1回以上レクリエーションの目的で森林を利用している。……森林を利用し自然環境に親しむ意識が道民の間に定着している姿が浮き彫りになった」と結論づけています。

現代は多様化の時代と言われています。道民の森林に対する関心と意識の多様化の狭間の中で、私たちボラレンの活動も変化していかなければなりません。森林に対する関心の高まりを、ボラレンの活動計画にどう取り込むか大きな課題です。

1月以降の活動

1月20日(木) ・第3回役員会 環境サポートセンター 18:30~

2月27日(日) ・野幌の冬の森観察会

集合：開拓記念館前 10:00 ~ 12:00

下見：2月20日(日)

3月17日(金) ・第4回役員会 環境サポートセンター 18:30~

3月26日(日) ・早春の森の観察会(森林公園事務所主催協力)

集合：野幌森林公園大沢口 9:30~14:00

下見：3月25日(土)

会員の声

当別町 目黒 敏弘

2000年の1月は昨年に比べ雪が少なく、楽な日を過ごせるかと思っていたが、毎日のように除雪の朝が続いた。

そんな日々を過ごしているうちに弥生3月春らしい気候に包まれホットしているこのごろであります。北海道の新緑5月～6月の季節を迎えると自然と接する機会を大事にして、今年も1日でも多く外に出る事を楽しみにしています。

特に私の町にある道民の森は、平成11年全面オープンしたことから、より楽しみです。皆さんもご利用回数を増やして下さい。

札幌市西区 矢島 慶子

ご存じ、山のフンお持ち帰り運動。ヒトの腸はへドロ状態なので「お持ち帰り」がしにくいのです。野生動物たちののは、お土産になるのに。シンプルな食性に憧れますよね。

そこで我が身で実験中ですが、女性は鉄欠乏性貧血と隣合わせなのでたいへん難しいです。どなたか多血質で山好きの方、研究してみませんか。情けは他人のためならず、まさに自分のためです。

体内の生態系を細菌に至まで本来のバランスに戻してこそ——ウグイスが自慢していますが洗顔料までは無理。せめて仔グマ程度は？

「いやー自然はすごい。生きているってことは凄いなあー、これが自然なのですね…。あとは黙って次からつぎへと飛んで来る鳥をみているだけ。沼を空を見ているだけ。

大学の先生が生徒を連れて鳥を見にきた。昨年4月下旬美唄宮島沼の一こま。

この先生の解説はすごい。前出文の言葉だけで、あとは何も言わない。40分位上と下を見て帰っていった。生徒は何を感じ、何を考え帰ったのだろうか…。

4万3千羽のマガン、3千羽の白鳥、あの沼が小さくなる、一面黒くなる。4月中旬より4月下旬2週間位の夕刻5時より6時位のドラマ!

赤く染まる空を背景に本当に凄いと言うだけ…。自然解説とは黙って皆それぞれが感じるものを見い出させてやれば良いのだったなあー。私もそのようにならないかなー。沼に一日いてつくづく考えた…。

皆様、力まず楽しく何事にも参加してみませんか。

春の自然を待つ

道東の雪も多く、草の芽はまだ顔を出さないが木の芽はふくらんできている。

川のせせらぎは春の兆しをすぐ近くまでささやいている。冬眠していた昆虫や雪の下から顔を出そうとしている草木の新芽も雪解けと同時に私たちを自然への世界へと案内してくれる。

待ち遠しい春の香り、フクジュソウ・ニリンソウ・カタクリなど色とりどりの春の世界を楽しませてくれる。その自然の中でいろいろな自然の発見、自然との触れ合いをつくってくれる。

私たちの活動がはじまるのである。

平成12年度 定期総会のご案内

本会の活動に会員の意思を反映させる重要な機会です。多くの会員の皆様に参加していただき、11年度の総括と12年度の活動計画を決定していきますので、ご案内いたします。

- ・日 時 平成12年度4月8日(土) 13:00~19:30
- ・場 所 かてる2・7 710号館 (札幌市中央区北2条西7丁目)
- ・日 程 受付 13:00 ~
研修会 13:40 ~ 14:40 講師 佐々木幸夫氏 (前副会長・事務局長)
総 会 15:00 ~ 17:00
(移 動)
懇親会 17:30 ~ 19:30 ユック (会費 3000円)

(北1条西5丁目興銀ビル地下1階)

総会に先立って、研修会を行います。前副会長・事務局長の佐々木幸夫氏にお話をして戴きます。

キャンペーンスローガン 自然との共存、21世紀に向けて!

倒木更新という言葉があります。朽ち倒れた大木の幹の上に芽生えている稚樹を見ると、生から死へ、死から生への様子から森の循環作用を知ることができ、輪廻転生という仏教思想を垣間見るおもいがします。循環作用が機能している森は、豊かな森です。豊かな森は、人々を豊かな心を育みます。豊かな心は森を大切にしたいという行動に駆り立てます。

豊かな森を慈しみ、森との共存、自然との共存を意識した活動を進めていきましょう。

パークボランティアとは

札幌市厚別区 佐々木 幸 夫

北海道ボランティア・レンジャー協議会の事務局を担当していた当時の私にとっては、精神的負担が多く、現在その立場にある事務局長のご苦勞に、感謝しています。

さて、5年前から月2回の病院通いの中でたまたま機会があり、支笏洞爺国立公園支笏湖地区パークボランティアとして、55名の仲間と、公園内の清掃・自然解説・補修などの活動をしています。今回はそんな体験を通して、北海道ボランティア・レンジャー協議会会報50回記念特別号に寄稿されるよう依頼がありましたので、敢えて駄文ですが以下に記しました。

パークボランティアにつきまして、本年7月某日、北海道新聞に掲載された記事では『パークボランティアは、人手不足と少ない予算に悩む環境庁が、レンジャー（公園管理官）の業務の補佐を目的に、1985年から全国に組織されたもので、無報酬で公園の美化・清掃から自然ガイド、利用者に対する啓発、生態系調査、立ち入り禁止の巡回まで数々の業務をこなしているが、支笏洞爺国立公園では支笏湖地区で91年からスタートし、現在、千歳をはじめ札幌・苫小牧さらに遠く八雲、滝川と現在56名が登録している。

環境庁レンジャーがわずか2名しかいない支笏湖地区にとって、「欠かせぬ存在」（支笏湖管理官事務所）「私たちが支笏湖周辺の自然を守っている。その自負で頑張っている」同地区パークボランティア連絡会の佐々木昌治代表（62）は胸を張る。

しかし、ボランティアがゆえの限界もある。支笏湖周辺の公園地域は山、湖、森と変化に富み、訪れる人の目的も登山から湖畔でのアウトドアまでさまざま。

すべての利用者が満足する対応をするだけの専門知識をボランティアが持つのは難しい。さらに公園管理者であるレンジャーと違い、権限がないため、立ち入

りの規制なども出来ない。同庁は「パークボランティアの役割は、あくまでもレンジャーの業務の一部を手伝ってもらうこと」（自然ふれあい推進室）と説明するが現実的には、本来は同庁が責任を持ってやるべき公園管理業務についても、ボランティアの自発性や熱意に頼らざるを得ないのが、今の国立公園の姿だ』と支笏・洞爺国立公園指定50周年記念にからんだ報道をしていますので、パークボランティアの役割をご理解できるでしょう。

このように北海道では7つの国立公園がありますが、この種の傾向は共通した状態であることに誤りはありません。そんな状態をもどかしく感じる余りに、大変不愉快なことがありました。それは同じ7月に支笏湖畔で、50周年記念行事の一環として道東に居住し、広く世界的に活躍されておられるH氏が、こどもあろうに、公園区域内の関係市町村の子供たちとのトークのなかで、彼は「私はボランティアを信頼していません。何故ならば、ボランティアは無報酬を盾に無責任だから……」との論旨で、啞然としました。

この場での発言は大きな意味を持ちます。私はこんな発言する人の話を、これ以上聞く必要なしと判断し退席しました。最高学府を出た人と謂えども私にとっては値ない人となりました。

それにしても、本年は50周年記念を中心に組織がらみで10数回、それに個人を含めると20回を超えています。因に、その内容は自然解説学習会、クリーン、子供パークレンジャー支援、自然観察会（滝めぐり）、自然解説（休暇村周辺・紋別岳登山）などで忙しく立ち振る舞い、その場その場で学ぶことが多くあり感謝する日々です。

去年はパークボランティアになったお陰で、秋に環境庁主催の全国研修会に参加することが出来ました。知っておられる会員もおられると思いますが、アメリカ人のポール・ラッシュ博士が日本の青少年研修の場として山梨県八ヶ岳山麓の清里に施設を作り、数多くの青少年に自然を通しての教育をされてきた所で、3泊4日、全国の共通した意識を持った人たち22名と、自然解説をする立場とその方法について教わりました。パークボランティアとして、支笏湖地区の範囲を

歩くのですから、これらに関心ありましたらご連絡ください。ご一緒しましょう。自然に対しては多言は無用。ボランティアとして誇りを持ち、今度来る2000年も前向きで生きて行きたいと思っています。勿論、北海道ボランティア・レンジャー協議会会員としても精一杯生きていきます。

会員の皆さんも、折角、自分たちで自然観察会を計画・実施したり、野幌森林公園事務所で主催する自然観察会の案内させて頂く機会があることは、その体験を通して向上するものであり、気軽に参加すべきものと思っていますが、如何なものでしょうか。北海道ボランティア・レンジャー協議会の発展は一に、会員の自然観察会下見・本番に、先ず参加することにあると信じて疑いを持ちません。

そんな事を念じながら、拙ない筆を止めます。

最後に会員の皆さんのご健康を祈り、新しい年にさらなる期待をします。

(1999. 12. 27 記)



キバナノアマナ
Gagea lutea

広報部では、広報誌「エゾマツ」50号を記念して、紀要作成を計画していました。原稿の集まりが予定通りにならず、作業が遅れています。

佐々木氏の寄稿原稿は紀要に掲載しようと考えていたのですが、原稿内容から本号のほうが適切と考え掲載させていただきました。

キーワード



森の巨人百選

林野庁は国有林内の巨木を保護するため「森の巨人百選」を認定するため、北海道から南の九州までの146本を候補としてリストアップしました。この選定にあたって、関係で選定委員会を設け、知名度や幹の太さなどを基に百本を選んで4月をめどに公表することにしています。そして、各地で「巨樹・巨木保護協議会」を設立し、活動を進めることにしています。

活動の内容は、①生命力が弱った巨木の診断、治療を樹木医に委託 ②木が踏み荒らされないよう保護さくを設置 ③国民が巨木に親しむため歩道た掲示板の整備等々のよう事業をすることになっています。

ところで、巨木の樹齢はどのように判定するのでしょうか。切り倒すことが許されませんし成長錐は長くても50cmなので、木の幹の直径は80cmぐらいが限界です。最近では、X線CTを応用した機器がありますが、装置の重量があり足場の悪いところでは測定が困難です。これらの他に、大気中に一定の割合で含まれている放射性炭素を使って樹齢を推定する方法があります。放射性炭素の半減期

(5737年)を基に樹齢を推定していきます。屋久島の縄文スギ、大王スギの樹齢

推定にはこの方法が応用されました。

年輪からは、樹齢を判定するばかりでなく気象や生態を読み取る樹木年輪年代学(フィロクロジ)の分野もあります。

「巨木百選」候補(道内分)

市町村	樹種	胸高直径(cm)		樹高(m)	樹齢(推定)	愛称呼称
		直径	幹周			
江別市	クリ	145	※455	18	500	クリの巨木
三石町	(日高管内) カツラ	108	※399	42	①	
同	(同) カツラ	108	※399	45	①	
平取町	(同) センノキ	127	※399	23	②	
浜益町	(石狩管内) ミズナラ	153	※480	18	②	千本ナラ
日高町	(日高管内) エゾマツ	106	※353	28	①	
夕張市	(日高管内) エイチイ	159	※499	20	2,000	
下川町	(上川管内) ニレ	205	※644	27	③	
中標別町	(宗谷管内) シナノキ		660	19	①	千本しな
美瑛町	(上川管内) カツラ		1,151	31	900	森の神様
網走市	(網走管内) ヤツタモ	146	450	37	③	
釧路市	(網走管内) カツラ	100	300	28	②	3本カツラ
上士幌町	(十勝管内) カツラ	140	478	29	④	
同	(同) ニレ	140	353	28	④	
標茶町	(釧路管内) ミズナラ	190	594	24	④	
弟子屈町	(同) ドロノキ	152	475	20	④	
乙部町	(桧山管内) カツラ		610	40	500	緑柱
上ノ国町	(同) スギ		340	25	②	森之丞杉
壮瞥町	(胆振管内) アカエゾマツ	127	399	31	④	

居間から野鳥雑観

札幌市南区藤野 小林 文男

この前、本誌広報部から近況の報告を、との連絡をいただきました。こんなことから、私事ですが近況の一部を報告させていただきます。

私は南区藤野に住んで15年目を迎えた一昨年、家の裏を流れている藤野川の改修工事のため、すぐ近くに移転しました。

ここの環境は、数百メートルのところに小鳥の村（森）があり、家の裏側は藤野川が流れる河川敷です。この河川敷には、ヤナギ・ハルニレ・ダケカンバ等の樹々が生えている小さい森があります。また、筋向えの一角には、ニオイヒバ（樹高10メートル程）の大生垣があり、いろいろな小鳥達の社交の場やらねぐらとなっています。

ところで、このような小鳥達のナワバリの中に踏み込んだような我が家です。庭には居間から見えるところに特大のバードテーブルを設置しています。

ここで、毎朝起床してから朝食後のひとときの間を利用して観察をしています。

ここにテーブル来訪者を紹介します。

最近、小鳥達より先にイタチがやって来て、バンクスやアブラミを銜えては滑るように穴に潜って行きます。黙っているといつまでも繰り返すので、適当なところで追い返すことにしている。

次には、エゾリスの夫婦（と思います）がやって来ます。この辺一帯が自分の縄張と勘違いしているのか、飛び回っては小鳥達を追い払っては、シジュウガラ達のヒマワリを食べている。これはきつと呑み込まないで体のどこかの貯蔵庫に押し込んで、運搬してから後でゆっくり食べるのではとないかと思う。

それにしてもマナーが悪い、食べた殻をテーブル一杯に散らばして悠々と帰るので、これからはゴミ袋持参願いたいところです。と言うものの、だんだん慣れたのか、居間から（距離3M程）手を振ればヤンチャ坊主のごとく飛び回るのがまた可愛いのです。

コウライキジも2～3日置きにやって来ます。最初は小鳥達がテーブルから落とした餌をあさっていたが、なんとなくオンコの枝の下に餌を置いたらそこが遊び場になった。先日の朝、遊び終って家の前から車道に出た時に登校途中の小学生4～5人と鉢合わせになり、走って逃げる途中圧雪路面に足を取られてジッコケた。

それからようやく羽根があることを思い出したのか大きな羽根を広げて飛び去った

。バードテーブルの脇には、直径5センチ程の竿を立て、それに針金でアブラミをくくりつけてお置いています。

毎朝6時半頃から夕方まで、アカゲラの雄雌数組が交代にやって来ます。この他ヤマゲラ・コゲラとシジュウガラの仲間やミヤマカケスもアブラミにやって来ます。



この前、ヤマゲラがアブラミの裏側に止まっているところに、これを知らずにかミヤマカケスが正面から飛びつく瞬間に跳ね返るようにして飛び散った。私も何が起きたのかわからなかったが、ミヤマカケスの羽が3~4枚空に舞え上がっていたところから、あのヤマゲラの嘴で一撃されたものと思う。

このように強弱のはっきりした社会のようで、たまにタカ(種類は不明)が小鳥狩りに来ます。

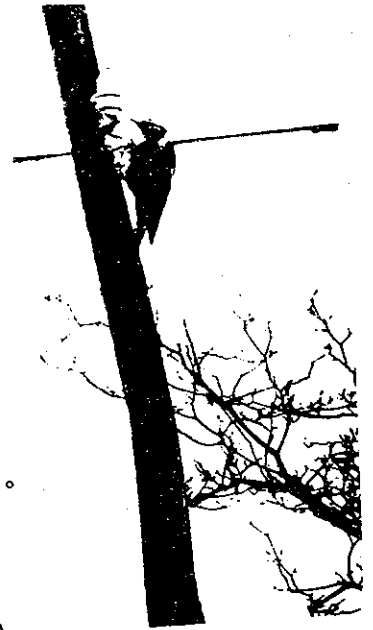
ある時、庭の竿の上にタカがとまっているため、小鳥の姿はまったく見えなくなった。その時です、一羽のスズメが何が魔がさしたのかフワリフワリと飛んできたのです。私は大声でアブナイゾ!と叫ぶ間にスズメはタカの爪のなかだった。

この一瞬のできごとですが、いつまでも私の心から消えません。

ところで私の近況となれば、今はもっぱらカンジキをはいての森の散策から、夏では道がないため行けないようなところの行事をやっています

。札幌近郊の1等~3等三角点の探訪から、冬カンジキでなければやれない登山コース等々の案内をしながら、間もなく訪れる春と秋までの計画作成とその段取りに追われております。

私の場合は居間からの野鳥観察ではなく、極めて雑駁な観察のためタイトルをザツな観察から雑観としました。





小宮山 宏 著

地球持続の技術

岩波親書 1999. 12. 20発行

定 価 660円+税

私たちの衣食住について改めて見直してみると、地球の資源や環境との関わりで成り立っています。この地球上の資源や環境について、多方面から警鐘が鳴らされていますが、次の事項がキーポイントになると言われています。

※エネルギー効率の向上

私たちのエネルギー資源の主たるものは化石資源（石油・石炭・天然ガス）ですが、エネルギー利用の効率を高めることによって、その使用量を抑制していきます。そうすることによって、化石資源の延命を図りつつ、非枯渇性のエネルギーシステムの構築を目指していく。

※人工物の飽和と循環

人工物が飽和するということは、新たに必要な素材と等しい量の人工物が廃棄されることを意味します。廃棄物をリサイクルによって必要なところにまわしていきます。そのことによって、資源の循環がなされます。リサイクルには市民の協力と分別回収の社会システムの構築が必要になっていきます。

※自然エネルギーの開発

日々のくらしの省エネルギー、リサイクルによるものづくりは、エネルギー資源の節約になりますが、基本的には化石資源に依存していることに変わりありません。化石資源に代替するエネルギー資源の開発に最大限の努力をしていく必要があります。

本書「地球持続の技術」の主張は、①エネルギー効率の向上、②人工物の飽和と循環、③自然エネルギーの開発を基本原理としています。21世紀に向けて地球を持続させるための技術についてのマスタープランをこの本から読み取って私たち個々人にとって何ができるか考えていきましょう。

私の一名山

札幌市西区 川端 功治

深田久弥氏の名著「日本の百名山」は全国の読者を感動させ、多くの山好きを山へ山へと誘い、大変な登山ブームを巻き起こしました。そしてこのブームの特徴は、ただひたすらに登ることしか考えて居なかった無粋な山男や山おんな達が、ペンや絵筆を持つて、何かを書こうとする意欲が刺激された効果も見逃せません。

ポイントとポイントまでの所要タイムを記録しただけでも、再登山の時には大変に役立つものです。ましてそのポイントの特徴を書留め、路傍の草花の呼び名から近景の様子、遠景のスケールの描写まで書き添えたものは、「自分の百名山」として貴重であるばかりでなく、知り合いに贈っても大いに感謝されることでしょう。

それに加えその折りの感動を短歌に歌いこんだ記録帳を戴いたことがあります。同行した自分にも共鳴するものがあり、当時を偲ぶよすがになって感激させられました。それに比べ自分の来し方を振り返えろうと探したが、満足な記録が無いのに気がつきました。それは会友の恵庭市小林英世氏の「私の一名山」を発表しようと呼びかけに「待ってました！」と立ち上がろうとしら、整理された目ぼしい記録が無くてガッカリ。

ところが捨てる神あれば、助ける神ありで、「私の一名山」原稿募集要綱に「思い出の山」でも宜しい、とありましたので、気の向くまま、時折駄文を綴り投稿致しますので、宜しくご了承願います。

漠然と登ってみたい山は沢山ありますが、芦別岳はその内の一つでした。けれども貴方の年齢では無理だと論されていたので、すっかり諦めていたところ、新道が完成して誰でも登れる楽しいコースになったとの評判に心が疼き始めました。

けれどもベテランのクライマー達は旧道の岩壁をクリアしなければ本物では無いと云う。私はなんでも、かんでも、良いから1726・9年の芦別岳に立ちたかったので新道コースの登山会に飛びついた。それは労山の市民サービス・バス登山会で、申込みが多数でしたのが、運良く車上的人となり山唄の合唱にも参加して、新装のキャンプ場に。そしてお定まりの前夜祭。リーダーが声を囁らしての飲み過ぎに注意した筈なのに盛り上がり過ぎて、翌日登山の途中でバテる人が出て、リーダーにご苦勞を掛けてしまいました。年を経るにつれ、これもまた楽しい思い出となりました。

私達の班は下界では見られない高山植物をリストアップして、参加者に知らせ、後日

プリント配付することにしてスタートしたが、頼りにしていた植物分類のベテランの、チーフがバツタしてしまった。その湯浅某（C社のお偉方）なる方は牧野富太郎創設の植物友の会のメンバーで、パソコンに見聞した植物名を打ち込み、その植物を解説した書籍の該当のページを転写しているの、一目で著者の見解の相違が判ると云う膨大な資料作りに取り組んでいるだけあって大変に詳しい。だが前夜祭の酒にはバッカスの悪魔が潜んでいたの、敢え無く6合目付近でダウンしてしまった。

そのために検索チームの行動はバラバラ。ボタンキンバイ発見の知らせに駆け寄ってみるとシナノキンバイの2倍以上の花弁数である。荷物を軽くする為め図鑑を持っている人が居ない。ままよボタンにしとけとケリをつけたが、後日梅沢俊先生に伺ったらシナノキンバイの八重咲きタイプで、新道の路傍に稀に見受けられると。ちなみに花弁は雄蕊状で花の中央部に散立し、花弁に見えるのは萼で、お椀状に咲き雌蕊の柱頭の先が真紅の（オオバナノエンレイソウの柱頭に似る）ボタンキンバイは利尻岳の特産で、芦別岳に咲くはずは無いとの教えでした。

珍種ツクモグサや高山らしい植物は旧道コースでなければ見られないとのことで念願のクモイリンドウの如きは大雪の駒草平らでなければ見られないのご託宣でした。

本州産のトウヤクリンドウの北海道版でエゾノトウヤクリンドウとされていたものが検討の結果、五十嵐恒夫教授「道ボラレン協研修部長五十嵐一夫氏の叔父」の研究成果が認められクモイリンドウと命名。学名（var. igarashi. M. et K.）と命名された経緯があります。

ついに憧れのピークに到達した。頂上の岩石には白髭の老人が、厳然として座り、天下を睥睨しているので、折角一番乗りを皆が譲ってくれたのに、上がることが出来ない。それでヤンワリと交渉しようと側へ寄って「今日わ！」と声を掛けたら、ジロリと見下しながら「お前の歳は幾つだ？」と聞くので「70歳を越えたところ」と答えると突然ゲラゲラと笑いだして「ナーンダそれならアンチャンだべヨ」「おれは88歳の、お祝いの登山なんだ。どうだ俺が尊敬するか？」チョツト面食らったが咄嗟に「尊敬しますとも。大先輩として大いに尊敬しますとも」と答えたら、「ホナラ何か旨いもの呉れ！」と云うのでミカンを差し出したら、ムシャムシャ食べて立ち上がり、「アアウメカツタ。アンチャンも達者でナ」と云い、手を振りながら、しっかりとした足取りで、下っていった。

登頂の順番を痺れを切らして待つ連中はドカドカとダンゴになって上がってしまっ

たので、私の単独登頂の感激ヤッホー咆哮はオジャンになって仕舞いました。

眺望絶佳とはこのことか。十勝連峰と大雪の峰々が連なる大展望が一望の裡ちにあり登り4時間30分の汗水か、フツ飛んで仕舞う感激であります。この山に登るなら展望の効く晴天なればこそと、条件をつけて皆に知らせようと心に決めました。

もしも高山植物の鑑賞にこだわるなら、旧道コースを選ばなければならないが、頂上直下にある緩斜地は、素晴らしいお花畑であるから、コース選びのキーポイントになりましょう。

一大パノラマに未練が残るが、元気が回復した一同は、調子も良くトントンと下り、鞍部にかかったところ、崖下の方向に手を合わせ、拝むようにして、うずくまっている紳士風の年配者に出会ったが、なんとなく怪訝な風情なので声を掛けてみたら、涙で濡れた顔を上げて「お見苦しいところをお見せして、…」と言葉を詰まらせて、語り出した。

「私は旭川商業の元教師で、ここでうちの生徒を亡くしました。元気一杯のその生徒が此処の下で、滴っている雪水を酌むと云いながら下りた所がアイスパーンの残雪だったので。アツと一声残して私達の視界から消え去りました」。あとは言葉に成らず、ただ嗚咽するばかりの先生を慰め下山を急ぎました。

帰札用のバスが待つキャンプ場に到着。下山の所要タイム3時間は標準時間だそうです。それにしても下山の足取りが、滅法に軽く感じたのは、理由があります。

それは頂上で出会ったあの白髭老人の告知の所為です。「お前はアンチャンだ！」。

私はアンチャンに急になったのではなく、もともとアンチャンであつた事に気がついていたのは、あの白髭老人が鋭く指摘してくれたお陰です。それで帰還バスでの山唄讃歌は一段と声が高くそして若々しい自分の声に惚れ惚れしました。

アンチャンの後日譚ですが、満員の市営バスで、老人専用席が一つ、空いていましたので、アンチャンのプライドもあつたが、ママヨと座って居たら、次のバス停で乗り込んできた男が「そこのお兄サン、老人に席を譲って下さい！」。ヤッパリ私はアンチャンだったのだ、とニンマリしたら催促の合図にポンと、後ろから肩を叩かれたのです。

これは嬉しがってニンマリして居る場合で無く、サッと立ち上がり、席を譲ったところ、「ドウモ、ドウモ」と云いつつ、私の顔を見て「アッ！」と声を上げて「コレワとんだ失礼をしました」と頭を下げてスゴスゴと後部の方へ移動した男性は60歳位で81歳の私は、この時アンチャンから脱皮、老人に格上げになった事を知った日でした。

*登山の為の参考書

北海道夏山ガイド(5)道南・夕張のやま編 梅沢俊他2氏著北海道新聞社発行

1800円

北海道の山と谷 北海道撮影社 北海道の山 山溪社

*山野草観察の参考書

北海道花の散歩道(続編103頁-芦別岳)梅沢俊著 北海タイムス社

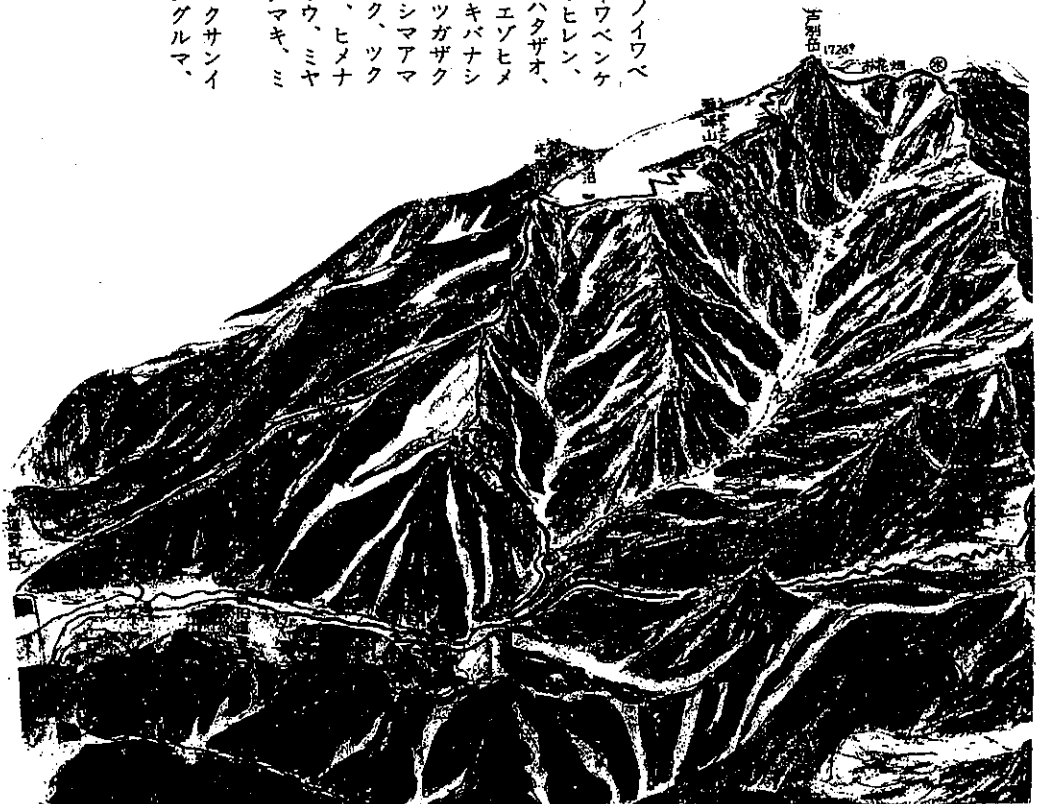
1300円

北尾根の花 アイヌタチツボスミレ、アオノイワベ
ンケイ、アオノツガザクラ、イワツツジ、イワベンケ
イ、イワヒゲ、ウスバスミレ、ウスエキトウヒレン、
ウラシマツツジ、エゾキスミレ、エゾノイワハタザオ、
エゾノツガザクラ、エゾノハクサンイチゲ、エゾヒメ
クワガタ、エゾヤマゼンゴ、エゾルリソウ、キバナシ
ヤクナゲ、クロマメノキ、ケヨノミ、コメバツガザク
ラ、タカネナデシコ、タカネナナカマド、チシマアマ
ナ、チシマゼキシヨウ、チシマヒヨウタンボク、ツク
モグサ、ハクセンナズナ、ヒメイワシヨウブ、ヒメナ
ツトウダイ、フギレエゾキスミレ、ミネズオウ、ミヤ
マアズマギク、ミヤマオグルマ、ミヤマオタマギ、ミ
ヤマビヤクシン、ミヤマリンドウなど。

頂上直下のお花畑 このお花畑はエゾノハクサンイ
チゲを主体としたやや湿ったお花畑で、チングルマ、
ツガザクラ類、ミヤマキンボウゲなど

芦別岳

深い谷と切り立つ岩壁。北海道の秀峰に本格的な登山の魅力を味わう。そして花の魅力も一級。



おくり申しあげます

石狩郡当別町にお住いの、会員 中井萌子様が、今年2月10日 ご逝去されました。中井萌子様は、1991年10月3~5日 当別町道民の森で実施された第10回 ボランティア・レンジャー育成研修会を修了され、本会の会員になられ、豊かな自然環境のお住まい周辺や道民の森をフィールドにして活躍いただきました。

また、広報誌「エゾマツ」の依頼にも快く投稿いただいていたました。

ここに、生前の本会によせられましたご理解ご協力に感謝すると共に哀悼の意を捧げます。

当別町 中井 萌子

道民の森から北へ、5kmの地点に住む私は、時の流れを見つめて参りました。10年前は、道々97号線の両側は5月の初旬ともなれば、大小の川の両側の草むら、小さな崖の面、ちょっとした俗に言う「やち」の中には、黄色のエゾノリュウキンカの花でうずまっていました。

更にエゾノエンゴサクの薄紫の花が美しい色のコントラストをかもし出し、またとない神の恵みを見せてくれていました。その美も、人の流れの増加に伴い消え去ってしまいました。この現象に私は考えこんでいます。

(1997. 6. 10 エゾマツNo.41号 ご投稿文)



エゾエンゴサク

観察会研修会 情報

平成12年度に主催・共催・協力する自然観察会

観察会の日程は、総会にて決定しますが、予定案としてお知らせします。

観察会の名称	日 時	下 見	集合場所	備 考
4月の森の観察会	4月13日(木) 10:00~12:00	4月6日 10:00 ~	開拓記念館前	協力事業
ありがとう観察会	5月14日(日) 10:00~14:30	5月13日 10:00 ~	野幌森林公園 大 沢 口	共催事業
旭川自然観察会	5月28日(日) 10:00~12:00	5月27日 13:00 ~	外国樹種見本林 駐 車 場	主催事業 交流会
野幌自然観察会	6月4日(日) 10:00~12:00	6月3日 10:00 ~	森の自然教室前	共催事業
恵庭自然観察会	6月18日(日) 10:00~12:00	6月17日 10:00 ~	恵庭公園駐車場	主催事業
二セコ自然観察会	7月9日(日) 10:00~14:00	7月8日 13:00 ~	神仙沼休憩所 駐 車 場	主催事業
夏の森の観察会	7月16日(日) 10:00~14:30	7月15日 10:00 ~	野幌森林公園 大 沢 口	協力事業
真駒内自然観察会	7月23日(日) 10:00~12:00	7月22日 10:00 ~	地 下 鉄 真駒内駅	主催事業
8月の森の観察会	8月10日(木) 10:00~12:00	8月3日 10:00 ~	開拓記念館前	協力事業
利根別自然観察会	8月27日(日) 10:00~12:00	8月26日 10:00 ~	大 正 池 駐 車 場	主催事業
野幌自然観察の集い	9月10日(日) 10:00~12:00	9月9日 10:00 ~	森の自然教室前	主催事業
秋の森の観察会	10月15日(日) 10:00~14:30	10月14日 10:00 ~	野幌森林公園 大 沢 口	協力事業
ありがとう観察会	11月12日(日) 10:00~14:30	11月11日 10:00 ~	野幌森林公園 大 沢 口	共催事業
12月の森の観察会	12月7日(木) 10:00~12:00	11月30日 10:00 ~	開拓記念館前	協力事業
1月の森の観察会	1月18日(木) 10:00~12:00	1月11日 10:00 ~	開拓記念館前	協力事業
冬の森の観察会	2月25日(日) 10:00~14:30	2月24日 10:00 ~	野幌森林公園 大 沢 口	協力事業
野幌の冬の森	3月25日(日) 10:00~12:00	3月24日 10:00 ~	開拓記念館前	主催事業

ボラレン会員 猪師 勉氏が主宰する「自然体験塾」の活動予定です

自然体験塾 平成12年度 自然観察会実施予定表

〒006-0816 札幌市手稲区前田6条9丁目 11-8

TEL/FAX 011-682-0874 猪師 勉

e-mail: taikenjuku@aol.com

月日	観察会の種類	観察会の場所	集合場所	持ち物	備考
2/6	冬山登山と 樹木観察	藻岩山	午前10:00 慈啓会病院前	昼食	防寒用服装
4/29	植物観察	北大植物園内	午前9:00 北大植物園前	メモ用紙	マンサクの花が みられる
4/30	カタクリの大群 落観察	花魁淵周辺	午前9:00 真駒内駅待合室	双眼鏡・図鑑 昼食	根を観察します
5/5	神宮の樹々 ウォッチング	北海道神宮境 内	午前9:00 円山公園管理事 務所前	双眼鏡 メモ用紙・昼食	日本以外の木も 多い
5/14	夏鳥のさえすり ウォッチング	円山公園周辺	午前9:00 円山公園管理事 務所前	双眼鏡・図鑑 昼食	キビタキ・オオ ルリ
5/28	山菜の見分け方	手稲山ロープ ウェイ周辺	午前10:00 手稲山ロープウ エイ前	ナイフ・ビニール袋・敷 物・お椀・小皿・ 昼食	山菜料理実演
6/4	苔の洞門と 円山遠見	支笏湖	午前8:00 西岡ダイエー前	昼食	申込必要☆
6/11	樽前ガロー	錦沼周辺	午前8:00 西岡ダイエー前	昼食	申込必要☆
6/25	夏山登山	裏手稲山	午前9:00 平和の滝広場	昼食	所要時間7時間 程度
7/2	海辺の植物	石狩浜海岸	午前9:00 ピシターセンタ ー	双眼鏡・図鑑 敷物・昼食	
7/ 8・9	特別企画(1泊2日)				申込必要☆
7/30	ホテル観察	西岡水源池	午後6:30 管理事務所前		小学校低学年の 方は保護者同伴
8/6	薬用植物観察	ユースの森 荒井山周辺	午前9:00 円山公園管理事 務所前	コップ・小皿・敷 物・メモ用紙・昼食	薬用植物談義
9/17	秋の七草 ウォッチング	厚真町	午前8:00 西岡ダイエー前	ナイフ・昼食 ビニール袋	申込必要☆
10/1	きのこ狩り	手稲山周辺	午前10:00 手稲山ロープウ エイ前	ナイフ・ビニール袋・敷 物・お椀・小皿・ 昼食	きのこ汁実演
10/15	紅葉ウォッチン グ	恵庭湖周辺	午前8:00 西岡ダイエー前	双眼鏡・昼食	申込必要☆
10/22	天然ドライフラ ワーウォッチン グ	西岡水源池	午前9:00 管理事務所前	昼食	サビタ・ツルア ジサイ・イワガ ラム
11/5	つるで花籠作り	未定	未定	花きりばさみ・ 軍手・ビニール袋・ 昼食	申込必要☆
11/12					参加費 1,000 円 (会員は除く)
13年 1/8	自然体験塾新年会				申込必要☆
13年 1/28	冬芽の樹と つる性の木観察	西岡水源池	午前9:00 管理事務所前	昼食	防寒用服装

※参加費300円(会員は除く)

※すべて雨天決行

編集後記

◆春の気配が感じられると、私たちの体も活力が湧いてきます。木々の芽吹きと共に森へ出かける日が待ち同志く感じられます。この新鮮な気持ちの持続を心掛けていしましょう。そして、私たちのボランティア・レンジャー協議会へにも、春と共に心を寄せてほしいと思います。

◆平成12年度の活動計画が総会で審議されます。言うまでもなく、総会は会の最高決議機関です。各地に在住する会員の皆さんにとっては、総会参加は難しいかも知れませんが、出席可能な会員の皆さんの総会参加を期待しています。参加によって得ることがあると思いますし、会員交流で親睦の和を広げていしましょう。

◆広報活動も2年間の任期を無事終えることができました。これもひとえに会員の皆様の協力があったからだと思います。次年度の新スタッフへも、積極的なかわりを持っていただけるようお願いいたします。

北海道ボランティア・レンジャー協議会
会報誌「エゾマツ」52号 2000.3.30 発行
発行責任者 大友 健
(表紙絵 広報部 三崎 篤)



イタヤカエデ